

Ⅲ 全体的な集計結果の説明

1 はじめに

本集計結果を参考とする場合は、あらかじめ次の3点に留意する必要がある。

- 1) 集計を行うに当たって、法人設立後1年未満のもの、損益状況、財政状況の記載内容に不備があるものを除外した結果、客体数は、全国の医療法人 5,588施設のうち、1,892施設（全体の33.9%）にとどまっていること。
- 2) 本集計においては、数値を平均値、20%値、中央値、80%値などいくつかの統計的データをとっているが、対象施設には開設年次が古いものと新しいものが混在していること。
- 3) 前年度との比較も試みたが、両者は必ずしも同一客体でないこと等から、医療法人病院の傾向をみることはできるが、これをもって正確な比較や全体の状態とみることはできないこと。

2 集計対象施設数と病床数等（表1参照）

集計対象施設数は1,892施設となっており、その内訳は一般病院1,088施設、療養型病院293施設、精神科病院511施設となっている。

1病院当たりの病床数は、一般病院126.8床、療養型病院123.6床、精神科病院260.1床である。

表1 集計対象施設数と病床数等

区 分	一般病院	療養型病院	精神科病院
集計対象施設数 (施設)	1,088	293	511
病床数 (床)	126.8	123.6	260.1
病床利用率 (%)	82.1	95.5	94.2
外来／入院比 (倍)	1.81	0.49	0.23
1日平均入院患者数 (人)	104.0	118.0	244.9
1日平均外来患者数 (人)	188.2	58.2	56.2

表2 損益状況の推移

区 分	黒字の病院の比率			赤字の病院の比率		
	13年度	14年度	15年度	13年度	14年度	15年度
一般病院 (%)	80.5	73.8	75.0	19.5	26.2	25.0
療養型病院 (%)	87.3	83.9	80.5	12.7	16.1	19.5
精神科病院 (%)	83.6	81.5	81.0	16.4	18.5	19.0

3 損益状況からみた一般病院の経営状況（表2・表3・表4参照）

一般病院の対象施設数 1,088施設のうち、赤字の病院数は 272施設で全体の 25.0% となっており、14年度調査（26.2%）と比較すると赤字病院の割合は 1.2%減少している。

また、地域によってバラつきがみられる。

表3：損益状況からみた基礎数値

区 分	全 体	黒 字	赤 字
集計対象施設数 (病院)	1,088	816	272
病床数 (床)	126.8	129.0	119.9
1日平均入院患者数 (人)	104.0	107.7	92.9
1日平均外来患者数 (人)	188.2	188.6	186.8

表4：損益状況の推移

区 分		14 年			15 年		
		施設数	黒字の病院		施設数	黒字の病院	
			施設数	比 率		施設数	比 率
総 数		1,040	767	73.8	1,088	816	75.0
病 床 規 模	99床以下	525	375	71.4	540	397	73.5
	100~199床	377	288	76.4	402	309	76.9
	200~299床	85	65	76.5	88	65	73.9
	300床以上	53	39	73.6	58	45	77.6
都 道 府 県	北 海 道	78	60	76.9	87	67	77.0
	東 北 道	70	48	68.6	89	64	71.9
	関 東 圏	184	127	69.0	164	113	68.9
	中 部 圏	168	120	71.4	175	119	68.0
	近 畿 圏	192	140	72.9	229	174	76.0
	中 国 圏	48	40	83.3	69	52	75.4
	四 国 圏	95	72	75.8	82	67	81.7
ク	九 州 圏	205	160	78.0	193	160	82.9
病 院 所 在 地 の 人 口	政令指定都市	192	140	72.9	211	154	73.0
	人口20万人以上	333	231	69.4	335	252	75.2
	人口5万人以上	283	221	78.1	323	250	77.4
	そ の 他	232	175	75.4	219	160	73.1

1) 機能性（表5参照）

病床利用率では、黒字の病院 83.5%、赤字の病院 77.5%と 6.0%の差がある。14年度調査では、黒字の病院と赤字の病院とでは、7.0%の差があり、病床利用率の差が小さくなっている。全体としては14年度 84.4 %から15年度 82.1%と 2.3 %減少している。

平均在院日数は、黒字の病院 34.1日に対して、赤字の病院は 31.0日と、3.1日赤字の病院が短い。14年度調査では、赤字の病院の方が 2.6日短くなっていた。全体としては、14年度 35.8日から15年度 33.4日と 2.4日短くなっている。

患者1人1日当たり入院収益は、黒字の病院 24,516円、赤字の病院 24,851円と赤字の病院が 335円高い。14年度調査では、黒字の病院が 391円高かったので、状況が逆転している。なお、全体としては14年度 23,845円から15年度 24,591円と 746円増加している。

表5：損益状況からみた機能性
（平成15年度）

区 分	全 体	黒 字	赤 字
病床利用率 (%)	82.1	83.5	77.5
外来／入院比 (倍)	1.81	1.75	2.01
平均在院日数 (日)	33.4	34.1	31.0
患者100人当たり従事者数 (人)	73.4	72.7	75.5
患者1人1日当たり入院収益 (円)	24,591	24,516	24,851
患者1人1日当たり外来収益 (円)	8,102	8,257	7,633

参考：（平成14年度）

区 分	全 体	黒 字	赤 字
病床利用率 (%)	84.4	86.0	79.0
外来／入院比 (倍)	1.80	1.74	2.00
平均在院日数 (日)	35.8	36.4	33.8
患者1人1日当たり入院収益 (円)	23,845	23,933	23,542
患者1人1日当たり外来収益 (円)	7,869	8,038	7,358

2) 収益性 (表6参照)

損益状況からみた収益性を黒字の病院と赤字の病院で比較すると、黒字の病院の方が赤字の病院よりも人件費率 -5.6%、材料費率 -1.9%、経費率 -2.1%、委託費率 -0.6%といずれも低くなっており、黒字の病院は、効率的な医療の提供や、経費の合理化・適正化に努めていると考えられる。

なお、人件費率については14年度調査に比べ黒字の病院で 0.4%、赤字の病院で 0.3%減少している。

表6：損益状況からみた収益性

区 分	全体	黒字	赤字	20%値	中央値	80%値
人件費率 (%)	51.0	49.7	55.3	45.9	53.3	60.2
材料費率 (%)	22.2	21.8	23.7	13.3	18.7	25.7
経費率 (%)	15.1	14.6	16.7	11.7	15.1	19.6
委託費率 (%)	4.3	4.1	4.7	1.2	3.3	6.7
減価償却費率 (%)	4.0	4.0	4.0	2.1	3.5	5.5
医業収益対医業利益率 (%)	3.4	5.7	-4.4			
経常収益対経常利益率 (%)	3.5	5.5	-3.1			
総収益対総利益率 (%)	3.1	5.0	-3.4			
経常収益対支払利息率 (%)	1.2	1.2	1.1			

注) 各比率の最下位から20%・中央値(50%)・80%にある施設の値を示している。

3) 生産性 (表7参照)

常勤医師1人当たりの年間給与は、全体 15,394千円、黒字の病院 15,146千円、赤字の病院 16,193千円となっている。14年度より全体で 539千円、黒字の病院で 566千円、赤字の病院で 448千円上昇しており、赤字の病院が黒字の病院の年間給与を上回っている。また、常勤看護師1人当たりの年間給与は、全体 4,707千円、黒字の病院 4,674千円、赤字の病院 4,811千円と、いずれも14年度調査を下回っている。

労働分配率は、付加価値を人件費として配分している比率を見るもので、100%を越えると赤字であることを示す。15年度の黒字の病院と赤字の病院の労働分配率の差は 18.9%で、14年度の 19.9%と比較すると、ややその差が縮まっている。

表7：損益状況からみた生産性

区 分	全 体	黒 字	赤 字
常勤医師1人当たりの年間給与 (千円)	15,394	15,146	16,193
常勤看護師1人当たりの年間給与 (千円)	4,707	4,674	4,811
従事者1人当たりの年間医業収益 (千円)	12,374	12,548	11,821
労働生産性 (千円)	6,735	6,960	6,020
労働分配率 (%)	93.7	89.7	108.6

4 損益状況からみた療養型病院の経営状況 (表2・表8・表9参照)

療養型病院の対象施設数 293施設のうち、赤字の病院数は57施設で、全体の19.5%となっており、14年度調査(16.1%)と比べ赤字の病院の割合が3.4%増加している。ただし、病床規模と地域により相違がみられる。

表8：損益状況からみた基礎数値

区 分	全 体	黒 字	赤 字
集計対象施設数 (施設)	293	236	57
病床数 (床)	123.6	132.9	84.8
1日平均入院患者数 (人)	118.0	127.2	79.9
1日平均外来患者数 (人)	58.2	58.0	58.8

表9：損益状況の推移

区 分		14 年			15 年		
		施設数	黒字の病院		施設数	黒字の病院	
			施設数	比 率		施設数	比 率
総 数		330	277	83.9	293	236	80.5
病 床 規 模	99床以下	169	133	78.7	153	106	69.3
	100~199床	104	89	85.6	93	85	91.4
	200~299床	37	35	94.6	32	32	100.0
	300床以上	20	20	100.0	15	13	86.7
都 道 府 県 ブ ロ ッ ク	北 海 道	18	14	77.8	25	21	84.0
	東 北 道	18	16	88.9	11	11	100.0
	関 東 圏	34	27	79.4	37	27	73.0
	中 部 圏	53	45	84.9	44	34	77.3
	近 畿 圏	39	33	84.6	46	35	76.1
	中 国 圏	21	18	85.7	11	9	81.8
	四 国 圏 九 州 圏	62 85	52 72	83.9 84.7	49 70	39 60	79.6 85.7
病 院 所 在 地 の 人 口	政令指定都市	34	29	85.3	50	41	82.0
	人口20万人以上	94	81	86.2	98	75	76.5
	人口5万人以上	86	69	80.2	72	57	79.2
	そ の 他	116	98	84.5	73	63	86.3

1) 機能性 (表10参照)

病床利用率では、黒字の病院 95.7%、赤字の病院 94.2%と黒字の病院がわずかに 1.5%上回っている。14年度調査でも黒字の病院の方がわずかに 1.4%上回っていた。

全体としては、14年度と同じ 95.5%となっている。

平均在院日数は、黒字の病院で 265.5日、赤字の病院で 215.8日と、49.7日の差がある。14年度調査では、黒字の病院と赤字の病院とでは、72.1日の差があり、平均在院日数の差は小さくなっている。全体としては、14年度 229.7日に対して、15年度 257.7日と、28.0日長くなっている。

患者1人1日当たり入院収益は、黒字の病院 15,703円、赤字の病院 15,687円と黒字の病院が僅かに 16円高い。14年度調査では、黒字の病院が 1,102円高かったが、15年度はその差がほとんどなくなっている。全体としては、14年度 15,656円から、15年度 15,701円と、45円増加している。

表10：損益状況からみた機能性
(平成15年度)

区 分	全 体	黒 字	赤 字
病床利用率 (%)	95.5	95.7	94.2
外来／入院比 (倍)	0.49	0.46	0.74
平均在院日数 (日)	257.7	265.5	215.8
患者100人当たり従事者数 (人)	69.2	69.0	70.3
患者1人1日当たり入院収益 (円)	15,701	15,703	15,687
患者1人1日当たり外来収益 (円)	6,583	6,596	6,533

参考：(平成14年度)

区 分	全 体	黒 字	赤 字
病床利用率 (%)	95.5	95.6	94.2
外来／入院比 (倍)	0.52	0.47	0.97
平均在院日数 (日)	229.7	240.0	167.9
患者1人1日当たり入院収益 (円)	15,656	15,772	14,670
患者1人1日当たり外来収益 (円)	6,377	6,453	6,064

2) 収益性 (表 1 1 参照)

損益状況からみた収益性を黒字の病院と赤字の病院で比較すると、黒字の病院の方が赤字の病院よりも人件費率 -6.0%、材料費率 -2.0%、経費率 -8.2%、委託費率 -0.9%といずれも低くなっており、黒字の病院は、効率的な医療の提供や、経費の合理化・適正化に努めていると考えられる。

なお、人件費率については14年度調査と比べ黒字の病院で 0.8%、赤字の病院で 0.4%減少している。

表 1 1 : 損益状況からみた収益性

区 分	全体	黒字	赤字	20%値	中央値	80%値
人件費率 (%)	55.0	54.1	60.1	50.3	56.8	63.0
材料費率 (%)	11.2	10.9	12.9	6.9	10.7	15.8
経費率 (%)	17.6	16.4	24.6	12.2	16.4	21.9
委託費率 (%)	4.8	4.7	5.6	0.8	3.0	7.7
減価償却費率 (%)	4.1	4.2	3.7	2.1	4.2	5.8
医業収益対医業利益率 (%)	7.3	9.7	-6.8			
経常収益対経常利益率 (%)	7.6	9.4	-3.0			
総収益対総利益率 (%)	7.4	9.1	-3.1			
経常収益対支払利息率 (%)	1.3	1.3	1.4			

3) 生産性 (表 1 2 参照)

常勤医師 1 人当たりの年間給与は、全体 14,880円、黒字の病院 15,140千円、赤字の病院 13,467千円となっており、14年度より全体で 471千円、黒字の病院で 871千円と上昇している一方、赤字の病院で 1,823千円下降している。また、常勤看護師 1 人当たりの年間給与は、全体 4,638千円、黒字の病院 4,608千円、赤字の病院 4,825千円となっている。14年度調査と比較すると、黒字の病院で 35千円下降しているが、赤字の病院では 473千円上昇しており、全体では、31千円上昇している。

労働分配率は、付加価値を人件費として配分している比率を見るもので、100%を越えると赤字であることを示す。15年度の黒字の病院と赤字の病院の労働分配率の差は 28.0%で、14年度の 21.8%と比較すると、その差は広がっている。

表 1 2 : 損益状況からみた生産性

区 分	全 体	黒 字	赤 字
常勤医師 1 人当たりの年間給与 (千円)	14,880	15,140	13,467
常勤看護師 1 人当たりの年間給与 (千円)	4,638	4,608	4,825
従事者 1 人当たりの年間医業収益 (千円)	9,210	9,228	9,097
労働生産性 (千円)	5,741	5,889	4,849
労働分配率 (%)	88.2	84.8	112.8

5 損益状況からみた精神科病院の経営状況 (表2・表13・表14参照)

精神科病院の対象施設数 511施設のうち、赤字の病院数は 97施設で全体の19.0%となっており、14年度調査(18.5%)と比べ赤字病院の割合が 0.5%増加している。
ただし、地域により相違がみられる

表13：損益状況からみた基礎数値

区 分	全 体	黒 字	赤 字
集計対象施設数 (病院)	511	414	97
病床数 (床)	260.1	263.4	246.1
1日平均入院患者数 (人)	244.9	249.9	223.6
1日平均外来患者数 (人)	56.2	57.8	49.7

表14：損益状況の推移

区 分		14 年			15 年		
		施設数	黒字の病院		施設数	黒字の病院	
			施設数	比 率		施設数	比 率
総 数		399	325	81.5	511	414	81.0
病 床 規 模	99床以下	-	-	-	-	-	-
	100~199床	140	110	78.6	179	142	79.3
	200~299床	137	115	83.9	182	148	81.3
	300床以上	122	100	82.0	150	124	82.7
都 道 府 県 ブ ラ ッ ク	北 海 道	30	24	80.0	48	41	85.4
	東 北 道	44	31	70.5	43	29	67.4
	関 東 圏	59	48	81.4	85	57	67.1
	中 部 圏	67	47	70.1	87	66	75.9
	近 畿 圏	42	39	92.9	54	46	85.2
	中 国 圏	30	26	86.7	41	37	90.2
	四 国 圏	26	19	73.1	31	24	77.4
	九 州 圏	101	91	90.1	122	114	93.4
病 院 所 在 地 の 人 口	政令指定都市	53	42	79.2	70	58	82.9
	人口20万人以上	123	101	82.1	169	134	79.3
	人口5万人以上	109	88	80.7	153	121	79.1
	そ の 他	114	94	82.5	119	101	84.9

1) 機能性 (表15参照)

病床利用率では、黒字の病院 94.9%、赤字の病院 90.8%と 4.1%の差がある。14年度調査では、黒字の病院と赤字の病院とでは 2.4%の差であったので、15年度はその差が開いている。全体としては14年度 95.1%から15年度 94.2%と 0.9%減少している。

平均在院日数は、黒字の病院 391.4日に対して、赤字の病院 450.0日と、赤字の病院の方が 58.6日長くなっている。14年度調査では、反対に黒字の病院の方が 9.9日長くなっていた。全体としては、14年度 399.0日から15年度 400.4日と 1.4日長くなっている。

患者1人1日当たり入院収益は、黒字の病院 12,910円、赤字の病院 11,896円と黒字の病院の方が 1,014円高い。14年度調査では、黒字の病院が 874円高く、患者1人1日当たり入院収益の差は大きくなっている。全体としては、14年度 12,616円から15年度 12,734円と 118円増加している。

表15：損益状況からみた機能性
(平成15年度)

区 分	全 体	黒 字	赤 字
病床利用率 (%)	94.2	94.9	90.8
外来／入院比 (倍)	0.23	0.23	0.22
平均在院日数 (日)	400.4	391.4	450.0
患者100人当たり従事者数 (人)	53.4	53.7	52.1
患者1人1日当たり入院収益 (円)	12,734	12,910	11,896
患者1人1日当たり外来収益 (円)	8,343	8,462	7,752

参考：(平成14年度)

区 分	全 体	黒 字	赤 字
病床利用率 (%)	95.1	95.5	93.1
外来／入院比 (倍)	0.23	0.23	0.25
平均在院日数 (日)	399.0	400.7	390.8
患者1人1日当たり入院収益 (円)	12,616	12,769	11,895
患者1人1日当たり外来収益 (円)	7,858	7,837	7,946

2) 収益性 (表 1 6 参照)

損益状況からみた収益性を黒字の病院と赤字の病院で比較すると、黒字の病院の方が人件費率 -6.6%、材料費率 -1.2%、経費率 -3.3%、委託費率 -0.9%、減価償却費率 -0.5%といずれも低くなっており、黒字の病院は、効率的な医療の提供や、経費の合理化・適正化に努めていると考えられる。

なお、人件費率については14年度調査と比べ黒字の病院で 0.6%、赤字の病院で 0.7%減少している。

表 1 6 : 損益状況からみた収益性

区 分	全体	黒字	赤字	20%値	中央値	80%値
人件費率 (%)	60.1	59.0	65.6	54.8	60.3	66.2
材料費率 (%)	12.4	12.2	13.4	9.3	12.4	15.8
経費率 (%)	14.5	14.0	17.3	10.7	13.6	17.4
委託費率 (%)	3.2	3.0	3.9	0.6	1.8	5.7
減価償却費率 (%)	4.3	4.2	4.7	2.0	3.9	6.3
医業収益対医業利益率 (%)	5.6	7.5	-5.0			
経常収益対経常利益率 (%)	6.6	8.2	-1.7			
総収益対総利益率 (%)	6.0	7.6	-2.1			
経常収益対支払利息率 (%)	1.1	1.2	1.0			

3) 生産性 (表 1 7 参照)

常勤医師 1 人当たりの年間給与は、全体 15,891千円、黒字の病院 15,832千円、赤字の病院 16,190千円となっている。14年度調査より全体で 671千円、黒字の病院で 532千円、赤字の病院で 1,346千円上昇しており、赤字の病院が黒字の病院の年間給与を上回っている。また、常勤看護師 1 人当たりの年間給与では、全体 4,847千円、黒字の病院 4,841千円、赤字の病院 4,875千円となっており、14年度調査と比較すると、黒字の病院で 134千円上昇し、赤字の病院では 25千円下降しており、全体では 106千円上昇している。

労働分配率は、付加価値を人件費として配分している比率を見るもので、100%を越えると赤字であることを示す。15年度の黒字の病院と赤字の病院の労働分配率の差は 19.5%で、14年度の19.0%と比較すると、ややその差は広がっている。

表 1 7 : 損益状況からみた生産性

区 分	全 体	黒 字	赤 字
常勤医師 1 人当たりの年間給与 (千円)	15,891	15,832	16,190
常勤看護師 1 人当たりの年間給与 (千円)	4,847	4,841	4,875
従事者 1 人当たりの年間医業収益 (千円)	9,390	9,492	8,890
労働生産性 (千円)	6,162	6,318	5,394
労働分配率 (%)	91.6	88.7	108.2

6 財政状態からみた病院の経営状況

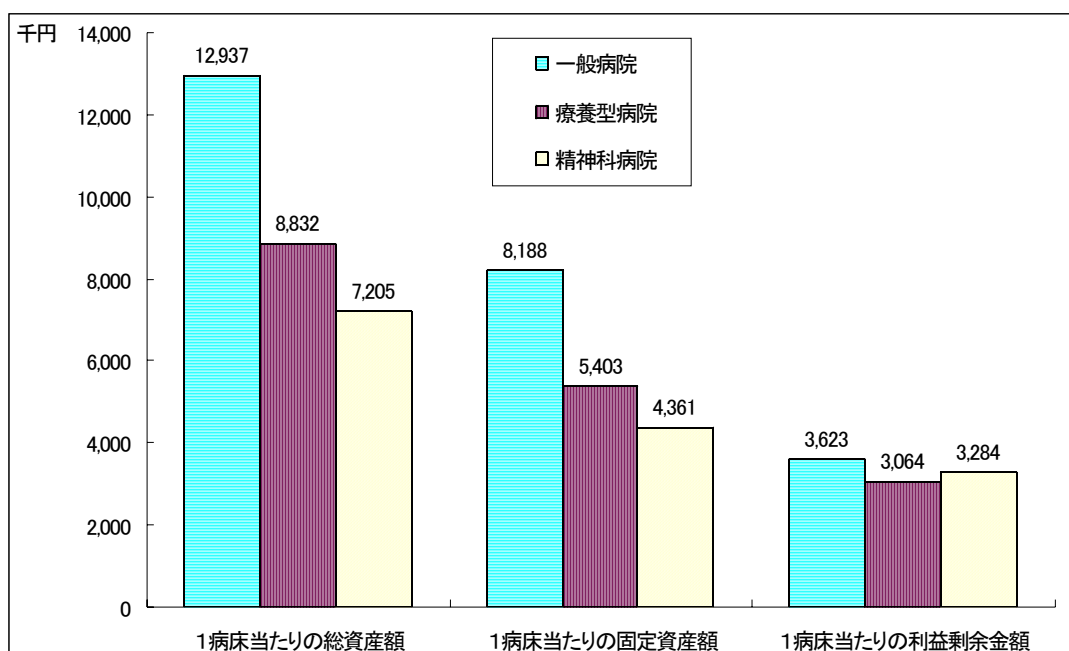
1) 財政状態からみた病院の経営状況－1（表18参照）

1 病床当たりの総資産額、固定資産額、利益剰余金額は、いずれも一般病院が高い数値を示している。

1 病床当たりの利益剰余金は、診療活動から生み出された内部留保が1 病床当たりいくらの利益があるかをみるものであり、療養型病院が、他の種別の病院と比べて低い。

表 1 8 : 財政状態からみた病院の経営状況- 1

区 分	一 般 病 院	療 養 型 病 院	精 神 科 病 院
1 病床当たりの総資産額 (千円)	12,937	8,832	7,205
1 病床当たりの固定資産額 (千円)	8,188	5,403	4,361
1 病床当たりの利益剰余金額 (千円)	3,623	3,064	3,284



2) 財政状態からみた病院の経営状況－2 (表19参照)

自己資本比率は、経営の安定性を見るための1つの指標であり、一般病院 38.5%、療養型病院 46.2%、精神科病院 55.2%となっており、14年度調査との比較では一般病院、療養型病院、精神科病院のいずれも増加している。

精神科病院の自己資本比率が相対的に高いのは、精神科病院が一般的に他の種別の病院と比較して総資産額が少ないことが影響していることも考えられるので、これをもって、精神科病院の優位性を示しているとみることはできない。

固定長期適合率は、自己資本と固定負債を加えた額で固定資産を除いてその割合をみるもので、固定資産取得の安全性を測るものである。今回の集計は、全体で68%から77%を示している。

自己資本比率がいずれの病院も平均では20%を大きく超えており、全体としては固定資産への過大な設備投資はないものと考えられる。

流動比率は、1年以内の短期支払い能力を測るものであり、通常この比率は少なくとも100%以上が好ましいとされているが、一般病院 183.8%、療養型病院 310.9%、精神科病院 347.8%となっている。

総資本対経常利益率は診療活動から生み出された利益と、その利益を生み出すための資本の割合を示す経営効率の指標であるが、療養型病院が6.2%と高い。

総資本回転率は、医業収益を総資本で除した値で、この比率が高いほど診療活動は活発で総資本の投下率が高いとされる。一般病院は0.91回転、療養型病院は0.79回転、精神科病院は0.70回転といずれも1回転を下回っている。

表19：財政状態からみた病院の経営状況－2

区 分	一 般 病 院	療 養 型 病 院	精 神 科 病 院
自己資本比率 (%)	38.5	46.2	55.2
固定長期適合率 (%)	77.1	68.4	67.7
流動比率 (%)	183.8	310.9	347.8
医業収益対借入金比率 (%)	43.7	50.1	44.6
総資本対経常利益率 (%)	3.3	6.2	4.8
総資本回転率 (回転)	0.91	0.79	0.70

